



ボラントリーネイバース実施「かなめびと応援プロジェクト・セミナー」(2026年5月21日)より

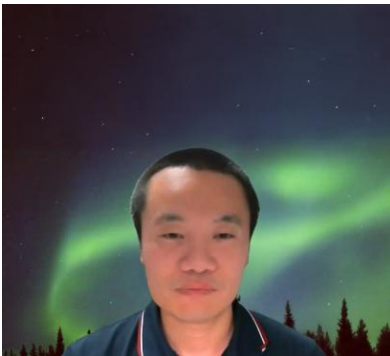
非営利団体向け クラウドシステムの活用 —SaaS型グループウェアを中心に—

講師：廣井修平さん (名古屋 NGO センター・理事)

かなめびと応援プロジェクトの一環として「かなめびと(組織運営コアスタッフ)」の学びの機会と「たすかりあう」関係を構築することを目指し隔月でセミナーを開催しています。第50回のポイントをまとめました。

本セミナーでは、日頃は経営管理やデータ分析、社内システムの運用に携わり、また、NPO に対しては PC・情報システムの管理やクラウドシステムの導入・運用といった IT サポートを行う廣井さんより、非営利団体がクラウドシステムを導入するメリットと選定基準について解説していただきました。

システムの導入は必要か？



メールや共有フォルダーの容量不足、作成したデータのバージョン管理が不十分、あるいはセキュリティへの漠然とした不安がある、個人向けサービスで団体の情報を扱ってよいのか否か判断しかねているといった困りごとはありませんか？そういった場合は、システムや仕組みの導入を検討すべきといえます。目安として、活動に関わる人数が3名を超えたら何らかのシステムを導入すると作業を円滑に進められるのではないかと考えています。1~2名であれば USB メモリや個人のやり取りですみませんが、3名以上になると情報の共有に支障が出たり管理が煩雑になったりするためです。

また、法人向けサービスはセキュリティ機能やデータの保護(バックアップやログ管理)が個人向けサービスより充実しており、組織的な運用を前提とした設計になっているため、個人向けから法人向けにシステムを移行することで解決できることも多くあります。システム導入は効率化するだけでなく、団体内の「仕組み」を整え、リスクを低減させるための手段でもあります。導入にあたっては、現在団体が抱える課題が解決されるかをよく検討することが重要です。

クラウド・SaaS とは？

クラウドとは、自前でサーバーを持つ「オンプレミス」とは対照的に、インターネット上のサービスを使う形態です。その代表的なモデルである SaaS(サーズ)は、必要なサーバーやアプリケーションがすべてクラウド側に用意されており、利用登録をするだけでサービスを受けられます。個人でも利用できるサービスとして、身近な例では、 iCloud、Microsoft 365、Gmail や Zoom などが挙げられます。導入が容易で、インターネット環境があればどこからでもアクセスできる点が大きなメリットです。一方で、どこからでもアクセスできるからこそ、不正アクセスを防ぐための適切なセキュリティ管理が求められるという注意点もあります。運用や管理の手間を抑えつつ、常に最新のシステムを利用できるのが特徴です。

自分の団体に適したシステムを選ぶには

自団体に適したシステムを選ぶには、まず現在の自団体が解決したい課題を整理します。メール、データ共有、チャットなど複数の課題を抱える場合は、これらを一括で管理できる統合型グループウェアが向いています。グループウェアとは組織やチーム内で情報共有やコミュニケーション、業務の共同作業を円滑に行うためのソフトウェアで、1つのサービスにいろいろな機能が組み込まれています。

グループウェアの代表的なものには Microsoft 365 と Google Workspace があります。

Microsoft 365 は、行政への提出書類などで Word や Excel を多用する団体に適しています。

一方、Google Workspace は IT 操作に不慣れな場合や、PC・スマホなど多様な端末が混在する団体におすすめてです。全てを一気に変えようとせず、まずはメールやファイル共有など、できるところから段階的に導入するのが成功のコツです。

非営利団体向けのプランについて

多くの IT サービスには、NPO 法人や非営利団体を対象とした無償提供や割引プランが存在します。2026 年 5 月時点では、例えば、Microsoft 365 の「Business Basic」は寄贈版として無償で利用でき、上位の「Business Standard」も約 75%の割引価格で提供されています。Google も非営利団体向けに無償プランを用意しています。その他、データ共有ツールの Box や Dropbox、Web 会議ツールの Zoom、デザインツールの Canva など無償提供や割引価格での提供の対象です。これらのプランを活用することで、法人レベルの高度なセキュリティや機能を低コストで導入できます。ただし、利用には非営利団体、非営利活動の審査が必要な場合がある点や、サービスによって対象となる団体の要件が異なる点には注意が必要です。

質疑応答コーナーでは、次のような質問がありました

Q. Microsoft 365 と Google Workspace の紹介があったが、どちらがおすすめてか、他の SaaS のほうが向いている等があれば教えてほしい。

A. 自社のサービス内での連携、データの共通化ができるため、今の団体における作業が Office アプリ主体か、スマホ・タブレットでの作業主体か等を踏まえて判断になると思います。しかしながら、各種申請書や報告書は Office ファイルが主体なので、365 が優位かもしれないと考えます。団体内コミュニケーションのみに課題がある場合は、ビジネスチャットの導入のみでもいいかもしれません。

Q. クラウド利用による個人情報の流出が不安です。どのようなセキュリティ対策が有効でしょうか？

A. ネット環境があればどこからでもアクセスできる利便性がリスクにもなるため、パスワードの複雑化、多要素認証の導入、ネットワーク単位でのアクセス制限、外部共有の禁止設定、操作ログの記録などの対策をとることが有効です。個人向けサービスよりも法人向けサービスの方が強固なセキュリティ環境を構築できます。

Q. チャットやメールに情報が散在して見つけにくいです。効率的に情報を統合・連携する方法はありますか？

A. 複数のツールを使い分けるのではなく、一つのグループウェアに統合することが効果的です。Microsoft 365 や Google Workspace など管理を一本化すれば、メールとフォルダを横断して検索できるようになります。また、管理 ID が共通化されることで、データの参照や連携も容易になります。

Q. Teams や Slack の導入を検討中ですが、外部連携の可否や毎月の費用負担が心配です。

A. Teams は Microsoft 365 の機能と親和性が高く、Slack は外部サービスとの連携先が豊富です。費用面については、非営利向けプランを活用することで、無償または割引価格で利用できる場合があります。将来的にどのような外部システムと連携させたいか、および現在の業務フローとの相性を考慮して導入するシステムを判断することが重要です。

※本事業は、休眠預金等活用法に基づく活動支援団体として実施しました。